

仕様書

技術戦略研究センター

1. 件名

2022 年度 重点技術領域の探索・分析手法の高度化に係る調査

2. 目的

新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO」という。）は、日本最大級の公的研究開発マネジメント機関として、経済産業行政の一翼を担い、「エネルギー・地球環境問題の解決」及び「産業技術力の強化」の二つのミッションに取り組む国立研究開発法人である。

イノベーションを巡るグローバルな競争が激化する中で、より適切な研究開発プロジェクトを構想するため、NEDO は、研究開発プロジェクトの前提となる中長期の技術戦略の策定に取り組んでいる。その際、社会的な要請や課題を起点とし、その打ち手としての技術開発課題などを抽出するバックキャストिंगと、既存技術の現状や新たな技術シーズを起点としたフォーキャストिंगの二つのアプローチから、技術開発の方向性を定め、あるべきプロジェクトを構想している。

このうち特にバックキャストिंग視点の分析については、社会課題のような一つの技術・産業では解決が難しい様々な問題を起点に解決策を具体化するためには、異なる専門知識を持った有識者の協働が重要である。そこで NEDO はこれまで、バックキャストिंगによる重点技術領域の探索・分析手法検討の一環として、グローバルな社会課題を構造的に理解し、その解決に向けた打ち手を多様なステークホルダーとのコミュニケーションを通じて探索する「社会課題起点の技術ツリー図」の作成に取り組んできた。

本調査では、NEDO におけるこれまでの検討を基に、重要技術領域の探索・分析手法の高度化に取り組む、その結果を取りまとめる。具体的には、NEDO が 2021 年 6 月 30 日に公表した将来像レポート「イノベーションの先に目指すべき『豊かな未来』」を題材として、実現すべき社会像を起点とした重点技術領域の探索・分析手法の検討（ワークショップの開催による有効性の検証等）を行う。

3. 内容

本調査で実施する内容は以下のとおり。（1）～（3）の各項目は一体的に進めることとし、その詳細は NEDO と協議し決定するものとする。

（1）実現すべき社会像を起点とした重点技術領域の探索・分析手法の検討

NEDO におけるこれまでの検討（※）や他機関の先行事例を参考にしつつ、実現すべき社会像を起点として我が国が取り組むべき重点技術領域を探索・分析する手法を検討し、その手法に基づくワークショップを企画する。

（※）2018 年度「重点技術領域の探索・分析手法の高度化に係る調査」

2018 年度「重点技術領域選定・分析手法の高度化に係る調査」

2017 年度「重点技術領域選定手法の高度化に係る調査」

ワークショップにおける議論テーマは、NEDO が 2021 年 6 月 30 日に公表した将来像レポート

「イノベーションの先に目指すべき『豊かな未来』」の「実現すべき 12 の社会像」の中から選定する。選定にあたっては、候補を複数提示の上、NEDO と協議のうえ 1～4 個程度に絞り込みを行う。

なお、現在 NEDO で検討しているワークショップの実施形式は以下のとおり。

【実施形式】

形 式：1 グループ 4 名、計 4～5 グループに分け、各グループごとにファシリテータ主導の下、グループ討議を行う（付箋や模造紙等を使いながらブレインストーミング形式で「実現すべき社会像」を起点とした技術ツリーの作成を行うことを想定）

参加者：NEDO 職員（非管理職）を中心とし、総勢 20 名程度を想定

場 所：NEDO 川崎本部内会議室（対面開催を予定）

日 時：2022 年 12 月上旬の 1～2 日程（計 4～8 時間程度）

（2）ワークショップの運営支援

上記（1）において企画したワークショップを開催するにあたり、その運営に係る事務局業務を行う。具体的には、事前の机上調査、資料作成、印刷（A0 判のツリー図素案データ含む）、当日の会場設営、グループ討議におけるファシリテーション、開催結果報告取りまとめ、その他事務補助を行う。

なお、グループ討議におけるファシリテーションについては、会議ファシリテーション業務の経験を有するファシリテータをグループごとに配置し、参加者の意見を引き出し、参加者間での議論を促す工夫を行うこと。

（3）手法の有効性の検証及び提言取りまとめ

ワークショップ開催後、アンケート、ヒアリング等の手段を用いて参加者からフィードバックを収集する。また、ワークショップの有効性についての分析・考察を行い、次年度以降の活動に向けた提言（ワークショップ実施に際して工夫等）を取りまとめる。

4. 調査スケジュール（予定）

本調査は、以下のスケジュールで進めることを予定している。円滑な調査実施のため、対面、メール又は電話等で定期的に調査の進捗を NEDO に報告すること（報告頻度は月 2 回程度を想定）。

2022 年 10 月～11 月	重点技術領域の探索・分析手法の検討（ワークショップの企画含む）
2022 年 12 月上旬	ワークショップ開催
2023 年 2 月末	ワークショップ開催結果報告取りまとめ

5. 調査期間

NEDO が指定する日から 2023 年 3 月 31 日（金）まで

6. 予算額

1,000 万円以内

7. 報告書

提出期限：2023年3月31日（金）

提出方法：NEDO プロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って、作成の上、提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

8. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。